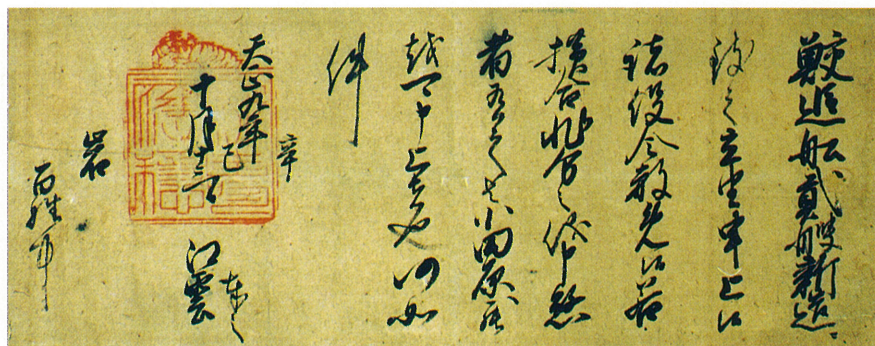


真鶴町史

資料編

題字
三輪
義正



天正 9 年10月13日 北条家朱印状 (真鶴町教育委員会蔵)



永禄 7 年11月10日 岩・真名鶴小代官・百姓中宛の北条家朱印状

(真鶴町教育委員会蔵)

釈迦堂遺跡出土（中期縄文式土器）（真鶴町教育委員会蔵）



平台遺跡出土（須恵器 3 点）（真鶴町教育委員会蔵）





狐塚1号古墳出土(須恵器3点) (真鶴 谷平賢治氏蔵)

狐塚2号古墳出土(須恵器2点) (真鶴 横山和司氏蔵)



貴船大明神縁起

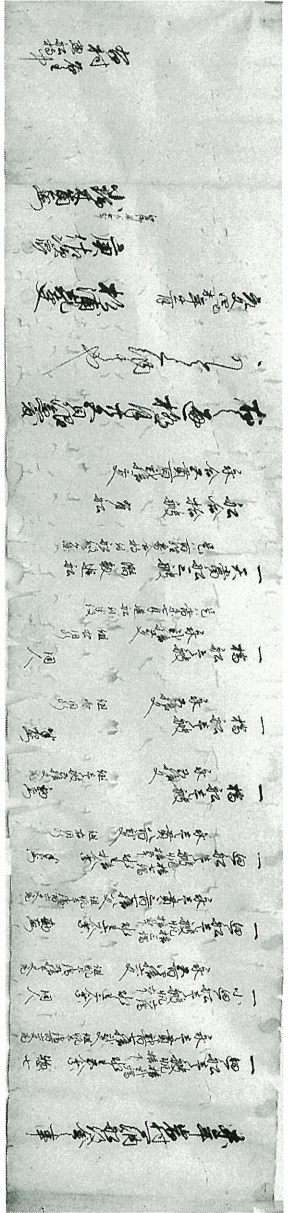
大抵林業國中關東一小國之内相次佳都
反相ノ安否極に亂支和政元壬辰年六月十
日此浦邊群帆汎然一艦泊來至是時年井澤有
今浦邊寄春朝日春細船屋木像台佛殿十体
餘並破重二運至寄佛殿前有渡舟無名晚出橋
有宮言銅二銅運見破寺變刻儀皇於其國常
華國爲遙空佛爲雲廟靈佛不毀數十百靈種之渡
上流來遊舟物後佛千拜千石而云如夢中泉
水聲響佛來第一有者復從後輪却舟而澤云
其使神爲靈蛇靈龜靈馬以爲父兄皇國之奉
比知神靈事報來本靈寺非敵神靈邊侵也亦在
明鏡彼則諸客人可事佛事靈提既也亦來求住
滴度而壬午歲之後於澤云遊空靈澤像不
妨爲祈佛神今年運靈像德宗之御建寺
奉靈宮大明神殿於中上下一刻成寺此
所置以奉靈神靈靈之現種ノ瑞雲觀日祥雲
無盡復殿自他殿有井靈則寺奉京靈二京
祇爲皇親國主之本民常奉玉法羅門寺觀覽
祐壬午無嫌八室共一祀或主無得慶奇事每于
我歲忌有、修神事遊空亦則一事遊空額
並佛殿在舊觀殿可雖其性五運渡一萬其亦
以靈難其主五義三觀寺瑞像以觀寺無像也
分說則權靈堂神也主中宿衆以一同無像大衆若
靈九夜無主無難也主一衣寺觀靈宮而瑞日在
其物於名其主、此之靈靈廟身如靈老滿
降二兩身自愛瑞提靈神時等名使之主體身瑞衆
無主不盡無疑之每時主敬也

年井澤之説誤記然靈

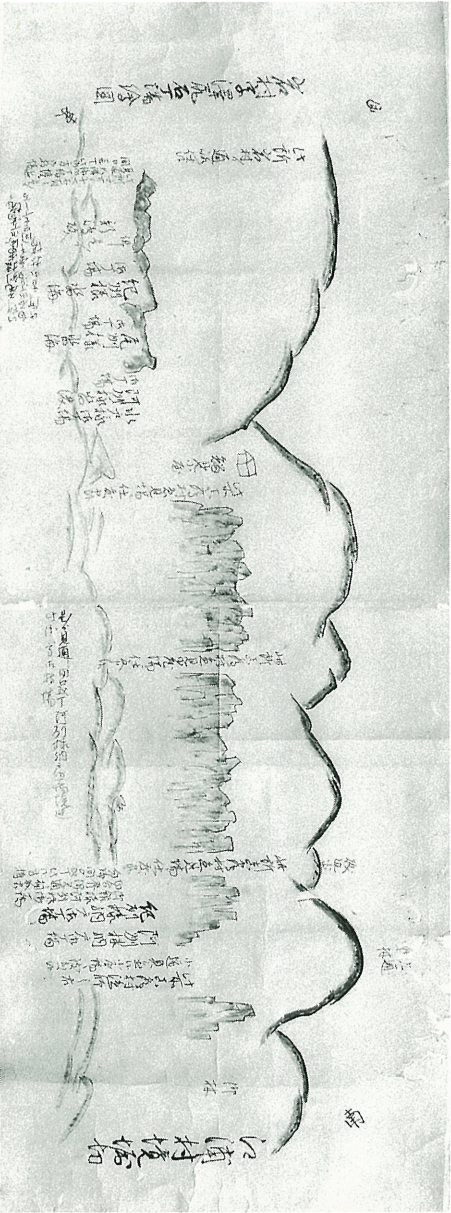
時支和政元主辰年

壬辰靈字三年 貴船寺辰

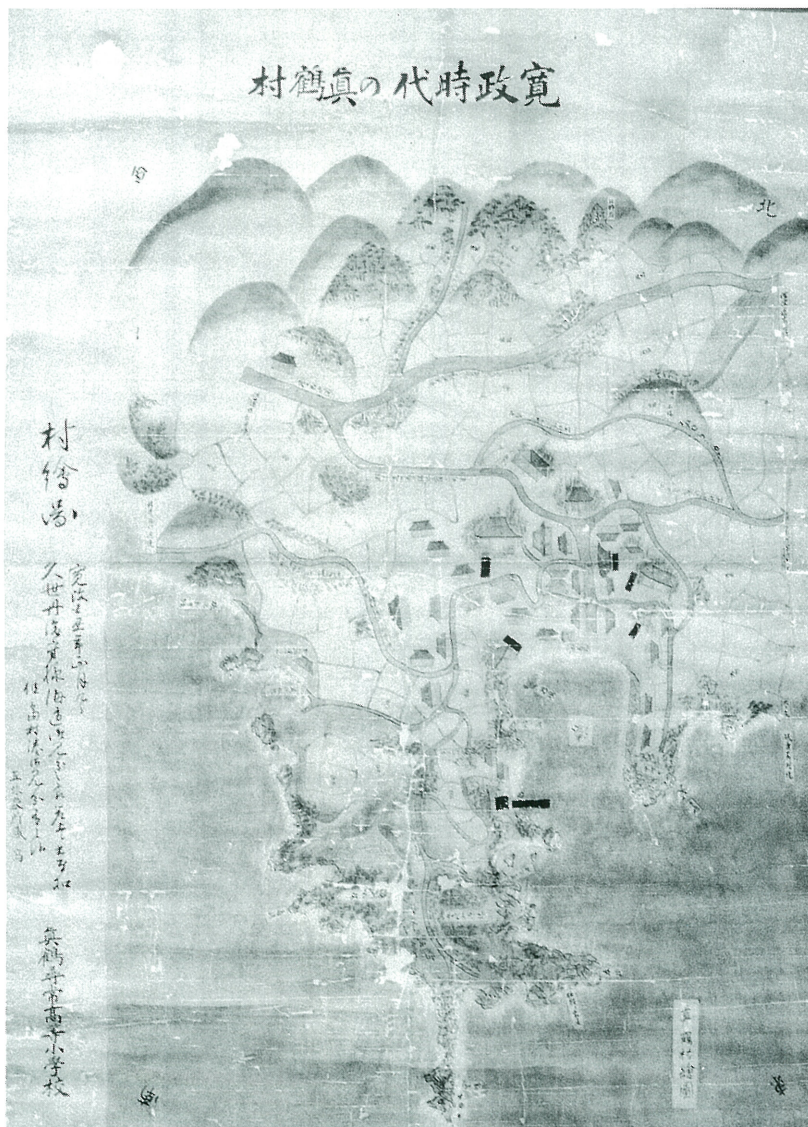
以外約十三萬時字



元文4年12月 未年岩村船役金割付状 (真鶴町教育委員会蔵)



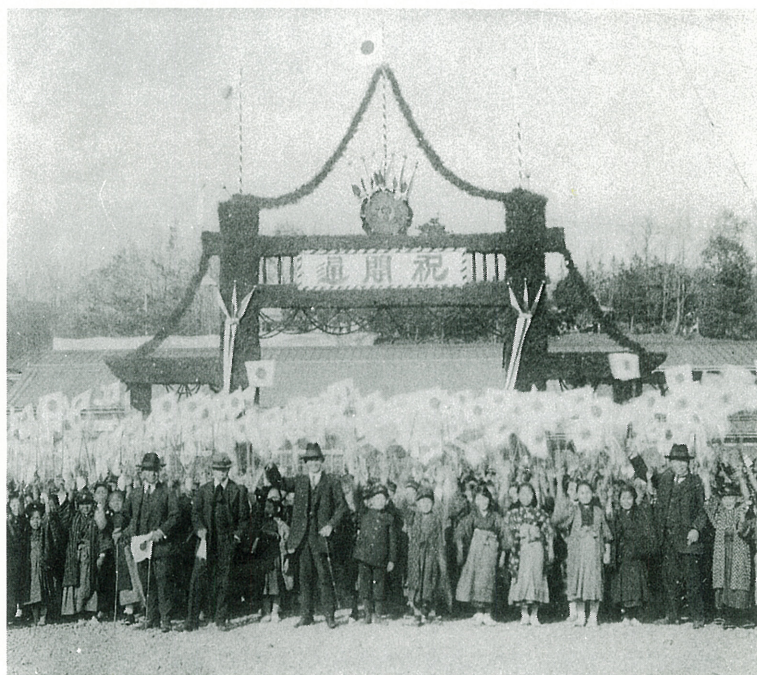
江戸時代後期 岩村沢尻石丁場絵図 (岩 青木春江氏蔵)



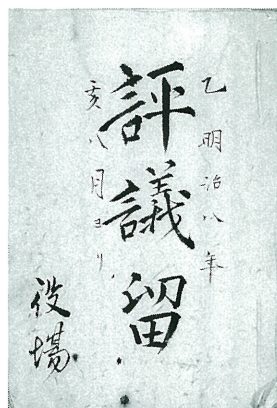
寛政 5 年 真鶴村繪図 (真鶴町教育委員会蔵)



昭和9年 完成した真鶴港



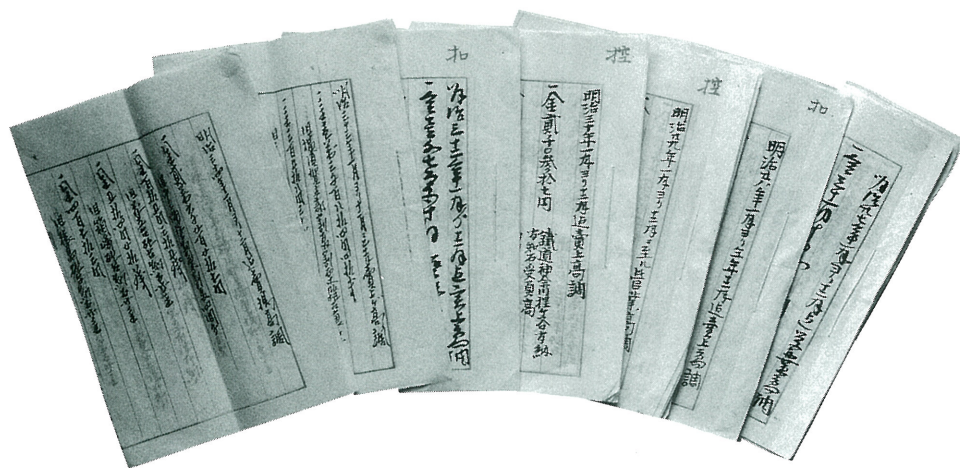
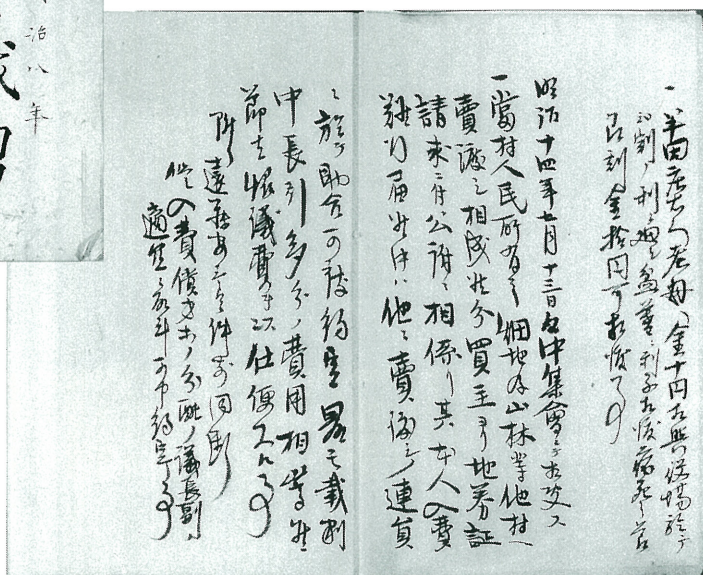
大正11年12月21日 鉄道開通祝賀式（真鶴駅前）



表紙
紙

明治8年起 岩村評議留（真鶴町役場蔵）

明治14年7月13日 集会記録



明治27年～34年 岩村土屋商店営業高調（土木用石材）（岩 土屋文雄氏蔵）

発刊のことば

昭和三十一年（一九五六）九月、旧真鶴町と岩村が合併し、新しい真鶴町が誕生してから三十五年の歳月がたちました。この間、国家社会情勢の進展にともない、地域自治体の機能もまた活性化の道をたどって今日に至っております。

こうした地域風土をふり返ったとき、河川・水田が皆無にひとしく、古来もっぱら石工・漁業に依存する小山漁村から、わが国中世史を開いた源頼朝・後北条氏ゆかりの地、近世以降関東の石材業および相模沿海漁の祖業地、徳川幕藩体制の中に根づいた海運業、近代わが国柑橘業先達の地へと、時代とともに推移した多様な歴史的背景を見とることができます。

現在、私たちをとりまく自然・生活環境は、科学技術の進歩と経済の発展によって急激に変容しつつあり、そうした中であって、ともすれば郷土の先人の残した自然・生活・文化と、それによってもたらされた有形無形の恩恵を見失いがちになっているのではないのでしょうか。その一例をあげますと、真鶴半島一帯にうっそうと生い茂った林が今日あるのは、三百余年の昔、村人総出で三年がかりで十数万本の苗木を栽植したおかげだということ。このような郷土

の歴史諸般についての理解を深め愛郷の念を培うとともに、これらを次代に継承してゆくことが私たちの責務であるとの観点に立ち、昭和六十二年町史編さん事業に着手いたしました。

以来五か年の作業を経て、このたび『真鶴町史 資料編』（全一卷）を発刊するはこびとなりましたことを喜ばしく思います。また『真鶴町史 通史編』も近刊の予定ですので、あわせて御一読いただければ幸いに存じます。御覧いただければおわかりのように、町史「資料」「通史」両編とも、内容は地誌・民俗・信仰・言語文化等をのぞいた考古・歴史分野で、収録年代は上記のように真鶴町・岩村合併時までとしました。なお今次編さん計画に盛り込まれなかった新真鶴町の歩みについては、将来続編のかたちで出版されることを期待するものです。

最後に本書発刊にあたり、これまでにいただいた町内外の皆様をはじめ編さん関係者各位の御協力、御尽力に対し厚く御礼申し上げますとともに、今後引き続きの御支援、御協力を心からお願い申し上げます。

平成五年三月

真鶴町長 三 木 邦 之

例 言

一 本書は『真鶴町史 資料編』（全一卷）として、町域に直接かわる歴史資料を整理し、これらを、第一編原始、第二編古代・中世、第三編近世、第四編近代・現代の四区分によって編成したもので、自然・民俗・言語文化等は除外されている。文献は「史料」、遺跡・遺構・遺物を含め総称する場合は「資料」と表記した。

一 目次・表題および文中、単に「真鶴」とあるのは、岩・真鶴両地区を含む現町域を指し、個別には「真鶴町（村）」「岩村」と表記した。

一 原始・古代の遺跡・遺構・遺物関係資料は、従前の調査結果によるものであるが、調査報告書類の内容掲載は見合わせ、また、今回の町史編さんのための新規発掘調査は行わないことにした。

一 古代・中世史料は、考古関係を除いた奈良時代以降一五九〇年（天正十八）の小田原北条氏滅亡までの文献・古文書を年代順に配列した。

一 近世史料は、一五九〇年（天正十八）の徳川氏江戸入府から一八七一年（明治四）廃藩置県までのものを採録し、史料間の関連性を持たせるため、分野別年代順に配列した。

一 近・現代史料は、一八七二年（明治五）廃藩置県後から一九五六年（昭和三十一）の新真鶴町制（旧真鶴町・岩村合併）発足まで、おおよそ事項別年代順に配列した。

一 明治五年以前は陰暦の年月を用いた。したがって年号を西暦で示す場合、実際には年数にずれのある場合もあるが、一般の慣行に従い単純換算によった。

一 各編冒頭に「凡例」と時代背景の「解説」、また必要に応じ語注・資料解説を付し、資料文末に出典・所蔵者

(機関)・所在地名を示した。

一 各編の編集担当者は次のとおりである。

第一編 原始

湯川悦夫

第二編 古代・中世

池上裕子

第三編 近世

第一、四章

馬場弘臣

第二章

土井浩

第三章

椿田卓士

第四編 近・現代

第一、二章

川崎勝

第三、四、五章

藤田和雄

真鶴町史 資料編 目次

口 絵

発刊のことば

例 言

第一編 原 始

凡 例 3

解 説 6

資料目次 6

第一章 岩 地 区 7

第二章 真鶴地区 16

第二編 古代・中世

凡 例 37

解 説 38

資料目次 40

第三編 近 世

第一章 古代の郷土 43

第二章 源頼朝と真鶴 48

第三章 土肥郷と真鶴 87

第四章 真鶴の産業と北条氏 96

凡 例 117

解 説 118

資料目次 121

第一章 村と支配 131

第二章 漁業の展開 193

第三章	石材業の展開……………	268
第四章	村の生活と文化……………	353
第四編	近・現代……………	

凡例……………	443
---------	-----

解説……………	444
---------	-----

資料目次……………	455
-----------	-----

第一章	近代社会の成立と村の生活……………	467
第二章	真鶴村外二ヶ村組合と村々の発展……………	540
第三章	関東大震災と復興活動……………	636
第四章	十五年戦争のなかの町づくり……………	693
第五章	戦後の民主化から町村合併へ……………	822

掲載資(史)料所蔵者・協力者・機関

町史編さん関係者

あとがき